

すけども、私は原理原則を破ってはならないと思うんです。市長は、多忙です。したがって、どんな激務の間を縫ってでも自分の訴えることは市民に丁寧に訴えていくという姿勢は持たなければならないと思います。したがって、市長の言葉から多忙ということが、激務ということが出てくること自体私は納得いきません。そういう意味におきまして質問に対する答弁は要りませんので、私の考えはそのとおりでありますので、以上で質問を終わります。

### 谷口栄子議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位7番、議席番号5番、谷口栄子議員。

(5番谷口栄子議員登壇)

○5番 谷口栄子議員 おはようございます。

12月定例会に一般質問させていただきます。しばらくのご清聴よろしく願いいたします。

通告しております次の3点について質問させていただきます。答弁は、市長、健康課長、建設課長、企画調整課長、商工観光課長、農林課長をお願いいたします。

初めに、内谷市長の2期目の無投票当選おめでとうございます。

市長は、上杉鷹山の格言、自助、互助、扶助の三助の精神で日本一幸せに暮らせるまちを目指し、全力を尽くされるご決意です。全員参加型の市政、女性が生き生きと元気で、若者が夢を抱き、子供たちが健康で笑顔あふれるまち、お年寄りに優しく、働く人々が幸せを実感できるまちづくりの実現を目指しておられます。健康に注意されて頑張ってほしいと思います。

ことは米価が下落し、農業者の苦悩は深刻です。民主党農政の根幹である戸別所得補償制度が下落の一因と指摘され、鹿野道彦農林水産

大臣が農家への所得補償にかかわる規模加算について来年度から導入したいとの方針を示したという11月20日の山形新聞夕刊を見て現場には大変不安が広がっております。「TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加を前提とした政策だろうが、年々高齢化が進む中だれが規模拡大に励むのだろうか。現実には日本農業を守り支えているのは、中小農家であることをしっかり見きわめていただきたい」と農業者は心から叫んでおられます。市場に投げ出された経営基盤の弱い農業は、もう我慢の限界で、中小農家を守る展望こそ必要と訴えておられます。

それでは、質問に入ります。1点目、乳がん、子宮頸がん検診受診率の向上についてであります。

東北6県の公明党女性局代表で昨年5月29日、厚生労働省に渡辺孝男副大臣を訪ね、子宮頸がんの予防ワクチンの早期承認と予防接種に公費助成を求める厚生労働大臣あての要望書と約102万人の署名を手渡してまいりました。

女性局では、昨年4月上旬から5月にかけて署名活動や医師らを講師とした健康フォーラムを東北で78会場開催、山形県でも13会場、長井市ではグランドホクヨウ長井を会場に山形市の井上聡子女性クリニック院長を講師に女性の健康フォーラムを開催し、井上院長から乳がん、子宮頸がんの検診の大切さをスライドを使い講演していただきました。

また、女性のがん対策拡充を求める要望書は、各東北6県の知事に対しても署名簿と一緒に提出しました。

山形県の吉村知事にも代表の皆さんと県庁を訪ね、12万2,000人の県内の署名簿を昨年5月22日、提出いたしました。このとき吉村知事は、知事の友人が乳がんで亡くなったことを話してくださり、検診の大切さをしみじみと語っていただきました。

県内13会場での健康フォーラム開催会場に知

事からメッセージをいただきました。

渡辺元厚生労働副大臣と舛添元厚生労働大臣には実現に努力していただき、予防ワクチンの日本での承認が昨年10月に実現できました。

ヒトパピローマウイルスの感染が子宮頸がんの発生原因と言われます。

20歳から30歳代の女性の子宮頸がんの罹患率及び死亡率が増加傾向にあることから、思春期前の女子へのヒトパピローマウイルスワクチン接種の促進を求める声が全国で上がっていました。

ウイルスの形は、高いリスク型ヒトパピローマウイルス、HPVといいますが、子宮頸がんの発症に関与、HPV16、18を含む15種。低リスク型は、良性のいぼの発症に関与、HPV6、11の2種。接種していればヒトパピローマウイルス（HPV）に感染しても若い女性の90%は3年以内にウイルスが消滅することが報告されています。予防法は、HPVワクチンはHPV16、18の感染を防御することでHPV16、18による子宮頸がん及びその前駆病変を予防するのです。何と言っても検診の受診率を高めることが一番です。

そこで女性特有のがん対策として一定年齢に達した女性を対象に乳がん、子宮頸がん検診のクーポン券とあわせて検診の手帳の配付を国に強く求め、実現させたのです。子宮頸がんは、20歳、25歳、30歳、35歳、40歳、乳がんは40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、ともに対象は2008年4月2日から2009年4月1日までに該当年齢になった人です。

昨年夏の衆議院選挙で民主党の政権となり、女性特有のがん対策の予算が大幅に削減されてしまったのです。

そこで、ことし6月の補正予算で実現させていただきましたが、昨年と同じ5歳刻みの人が該当しました。若い女性にふえる子宮頸がんは、欧米の受診率80%以上に対し日本は21%と低い

受診率が致命的になっているとの分析です。

若い人が検診をどうすれば受けやすいのか。さらにこの子宮頸がん予防ワクチン接種の実施と公費助成については接種費用は、1人当たり3回接種で約5万円と高額です。全国で270を超える市町村が公費助成をしても全額公費助成は少ないので、半額助成や3分の1助成では若い女性の命は守れないと思います。今ねじれ国会の中で公明党は、全額公費助成で効果が期待される年齢、12歳女子での全国一斉接種と予防検診をあわせて推進し、子宮頸がん予防を完璧にする子宮頸がん予防法案を前国会に提出しました。けれども審議未了で廃案となり、今臨時国会での成立を目指しております。11月19日、公明党、自民党、新党改革の3党共同で同法案を再提出しております。11月28日付公明新聞には、このことが紹介されております。本市の取り組みと市長の見解をお伺いいたします。

また、無料クーポン券の活用については、昨年のクーポン券を活用した20代の女性は前年度比4倍増で、クーポン券の配付が奏功したと見られます。しかし、まだまだ利用促進の工夫が必要と思います。11月26日付山形新聞の提言で検診全体の取り組みで県内の大蔵村の保健師さんの紹介がありました。若い人の意見を聞き、受診しやすい環境づくりも本市にとっては大切なのではないのでしょうか。他市町村の取り組みも参考にぜひ今回のクーポン券の活用に力を入れていただきたいと思います。

健康課長には、ことしの取り組み状況をお伺いいたします。

次に、長井駅西周辺整備についてです。

まちづくり交付金事業で21年、22年の事業として概要が示されたのは、21年3月の定例会でありました。

具体的な整備の内容は、フラワー長井線西側の防風林、杉の木200本余りの伐採、せせらぎ水路の整備、遊歩道の整備、植栽、種類につい

+

ては未定、照明灯の整備、フェンスの整備、水飲み場の整備、フラワー長井線を東西に横断する道路の整備が上げられました。西側用地全体が公園化構想でした。当時の資料は素案で、「整備箇所面に面する住民の要望を盛り込み、実施計画を作成していく予定である」と当時市長は答弁されました。

また、フラワー長井線を東西に横断する道路の整備では、今現在でも東側の駅から出たところに遮断機がありますが、西側にも同じように遮断機をつけて電車が入ってくる場合、危険防止のために遮断機がおり、通常は開放しているというような計画であると当時の建設課長の答弁でした。

22年度の工事が9月7日から12月10日の期日で今行われております。せせらぎ水路が整備されておりますが、駅西側から線路の下を流れて高野町地区へ流れております。この水路は、ダイヤ印刷さんのところでもう一つの水路と、元ハイマン電子工場の下を流れている水路ですが、ダイヤ印刷さんのところで合流しております。その先、ヤマシロヤさんわきを通り、高野町通りの道路の下を流れて長井製綿店さんのわきの榎木川に流れています。水路をたどってみますと、ダイヤ印刷さんまで新しい水路工事が行われましたが、それ以降は昔のままの狭い水路です。

去る9月12日の豪雨時、高野町地区で水害が発生し、ヤマシロヤさんの小屋に水が入り、車のタイヤを横に積み上げている1本ぐらいまで水が上がったとのことでした。

また、空き家になって敷地内の草が伸び、側溝にも草が茂り、水が流れにくくなって水害が発生したところもありました。

榎木川水路改修は、長井製綿店さんわきで予算が切れて工事が途中で終了しています。駅西から流れる水路がこの榎木川に流れますので、水害対策としても改修工事を行うべきと思いま

す。

「防風林の杉の木が切られて一面明るくなった。今までは杉の葉が落ち、風が吹き、雷が鳴ると杉の木に落ちないかと心配していた」と中道の人たちはおっしゃっていました。整備されたところを犬と一緒に散歩している人もおられるようです。

駅西整備の進捗状況、フラワー長井線の東西に横断する道路の整備について今後の工事の取り組み、また冬の除雪などについて建設課長にお伺いいたします。

駅舎の修繕についてです。

長井駅周辺が整備されますと長井駅の屋根のさびが目立ちます。駐輪場の手すりもさびています。ペンキの塗りかえなどの予定はどうなっているのでしょうか。

去る11月13日、南長井駅の自転車小屋の柱のペンキの塗りかえを四ツ谷地区長を中心に公民館長、長井高校生などの皆さんできれいに塗っていただきました。地区の回覧で南長井駅の自転車小屋のペンキ塗りかえの予定が知らされていきました。地区の人と一緒に作業された多くの長井高校生に感謝するところです。

また、先日フラワー長井線に乗って感じたことですが、今泉駅のホームでフラワー長井線の列車の中から見てホームの「いまいずみ」の表示が薄くなって読めませんでした。今泉ホームは、昔から変わりませんが、常に電車に乗っている人は気がつかないかと思いますが、観光客の立場で見えますとほかから来た人が駅の表示が見えないことでは不安ではないでしょうか。フラワー長井線は、観光客の集客に力を入れていろいろなイベントも企画しております。このときも電車の中で宮内駅うさぎ駅長「もっちゃん」の宣伝をしながら黒豆茶やボールペン、沿線の駅名のキーホルダーなどを売ってました。

沿線上の説明も行っており、山鉄さんの努力

は感じられますが、沿線の駅舎の修繕についてどのように行うのか。ほかの市町村を参考に企画調整課長にお伺いいたします。

最後に、県の花ベニバナの栽培促進についてです。

ベニバナは、染料として県内各地で栽培が普及し、江戸時代後期には最上紅花千駄と言われ、1駄は120キロとのこと。100トン以上の生産量を誇っていたと言われます。県の紅花生産者組合連合会が設立し、1973年には3,350キロの加工品を出荷していたと記録されています。

その後、化学染料の普及、生産者の高齢化などで現在の出荷量は毎年100キロから150キロに落ち込んでいるようです。

酒田市の東北公益文科大学やベニバナ生産者らが「紅の花ふる里再生協議会」を組織し、ベニバナの栽培促進に取り組み、染料としての役割だけでなくベニバナに含まれる赤色酵素の抗酸化物質「カルサミン」を食べて健康になると新商品、新規利用の模索に尽力されております。

本市にもベニバナを健康食材として多くの人に知ってもらおうと花やくきなどを加工したり若菜を紅花菜として商品化させているのが平山の蒲生日出男さん、56歳を中心に「県花紅花を咲かせる会」、10人のメンバーがいます。蒲生さんたちは、白鷹町のベニバナ栽培のベテラン、青木勝助さん、76歳のアドバイスを受け頑張っています。

ベニバナ若菜には、コマツナやハウレンソウに比べ抗酸化作用のビタミンCが100グラム中74ミリグラム、血行促進のナイアシンが100グラム中1.25ミリグラム、骨や歯を丈夫にするカルシウムが100グラム中190ミリグラム含まれていて、健康食品として効果があると報告されています。

蒲生さんは、紅花菜や花びらを乾燥させた乱花やくきを乾燥させ粉末にした紅花みどり茶、

紅花若菜の塩漬けなど直売所菜なポートや飯豊町のしらさぎ温泉売店などで販売しているようです。農業共済新聞、ことしの5月1週号でも「ベニバナ抗酸化作用に注目、食材利用で生産拡大」の見出しで紹介されております。市長の見解を伺います。

観光面の栽培状況について、本市は個人ではほとんど見ませんが、タスパークホテル後ろ、最上川沿いに県内で一番広い面積として2年前より栽培されて、フットパスを散策する観光客に見てもらったり、切り花、乾燥花としても活用され始めています。

また、ベニバナ茶にしてもベニバナをアピールされております。今後の取り組みなどはどう考えておられるのでしょうか、商工観光課長にお伺いいたします。

また、県花ベニバナを食用の栽培として今後推進し、生産拡大されれば新しく長井の特産品として注目され、栽培する人の輪が広がります。農林課として県花ベニバナの栽培の推進、食品化への後押しについてはどのようにお考えでしょうか、農林課長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 申し上げます。質問が多岐にわたっておりますので、整理をさせていただいて答弁をお願いいたします。

内容重治市長。

○内容重治市長 谷口議員のご質問にお答えいたします。

最初に、谷口議員からも温かい励ましの言葉をいただきまして、ありがとうございます。ぜひ忙しいというような弱音を吐かずに一生懸命頑張ってもらいますので、何とぞよろしくご指導お願いいたします。

それでは、まず最初に、1点目の乳がん、子宮頸がん検診受診率向上についてでございますが、私の方からは（2）の予防ワクチンの実施

+

助成についてお答えいたします。

谷口議員からもありましたように、公明党の子宮頸がん予防に対する取り組みは、松あきら副代表、渡辺孝男参議院議員らが予防ワクチンの接種と検診の実施を全額公費助成する子宮頸がん予防法案が参議院に提案されておりまして、党派や男女を超えて実現したいという強い意思を感じております。

ご質問の子宮頸がん予防ワクチンについては、国の元気な日本復活特別枠に総額150億円の子宮頸がん予防対策強化事業として概算要求され、またこのたび成立いたしました国の平成22年度補正予算では子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチン接種の公費助成が盛り込まれたところでございます。

また、山形県も、これ吉村知事の判断で、全国の都道府県では数少ないというふうに伺っておりますが、この措置を踏まえながら山形県予防接種緊急促進臨時特例基金の造成と事業実施について補正予算案を準備している状況のようでございます。

この状況から長井市といたしましても子宮頸がん予防ワクチンを始めとする3ワクチンを年度内に少しでも早く接種ができるよう実施したいと考えており、大変恐縮ではございますが、本定例会に追加提案していくよう事務当局に準備を今指示してるところでございます。

年度内の日数は大変限られておりますが、今年度は23年度では事業の対象にならない方、これは現在の高校1年生女子のケースなどもありますので、そういった方々を中心に実施し、女性の健康を守り、がんの発症を抑えていくように市としても努力してまいりたいと思っております。

次に、2点目の長井駅西周辺整備についてでございますが、私の方からは駅舎の修繕についてのみ簡単に答弁させていただきたいと思えます。

フラワー長井線の駅の美化や管理については、現在駅協力会の皆様のご協力をいただき、長井駅の草取り、それから沿線各駅の美化に取り組んでいただいております。

南長井駅の美化の取り組みも駅協力会の皆様に参加をいただき、地区の皆さんにご協力いただくにはやはりフラワー長井線を愛していただくことが大事でありまして、そうした機運づくりを行い、より多くの皆さんにボランティアに参加いただけるようにしていきたいと考えております。

長井駅については、修繕する必要があると、特に屋根等はさびついていてちょっと外観上がよくないというふうに思っておりますが、修繕については山形鉄道、地域住民、関係者、市と一緒に理解し、検討する場を設け、取り組む必要があると考えております。

具体的には経営者が変わったということもあって駅舎は市が自由にしてくれるものというふうに勘違いしてるんじゃないかなど。結局山形鉄道の所有のもので、山形鉄道の方からぜひこういった改善をしていただきたいというような要望等をいただかないとこちらとしては勝手にできないという立場がありますので、たまたま来週社長、専務などと懇談する機会がありますので、その辺のところをちょっと話してみたいというふうに思っております。

次に、3点目の県の花ベニバナの栽培推進についてですが、私の方からは観光、食用の栽培状況についてでございますが、後ほど商工観光課長、農林課長の方からも簡単に答弁あるかと思えますけれども、ベニバナは転作作物として館町、東町地区で101.6アール栽培されております。そのほかは谷口議員からお話ありましたように、平山の蒲生日出男さんのグループの皆さんが意欲的に取り組んでられるというふうに私も聞いております。

今後の取り組みでございますが、観光協会の

方で東町の方に約1ヘクタールの土地を借りて栽培をしておられるという取り組みの視点、努力については敬意を表したいというふうに思いますが、これはやっぱり栽培が難しいというところはかなりあるんだそうでございます、栽培面積をふやす努力は必要だと思いますが、難しい状況かなというふうに思っています。

また、商品として流通させるための環境整備がまず必要なのではないかなと思っております。

白鷹については、ベニバナの研究会的なものを農家の人あるいは有志の人が中心となって立ち上げておられて、これが10数年に及ぶ活動してるということでございます、やはり長井の方もそういった取り組みをする際はもう少し体制あるいはいろんな研究が必要なんではないかなというふうに思っております。

議員からあったように、食用としての活用というか、それらについても大いに可能性があるかというふうに思っておりますので、今後いろいろ検討するように市の方でもいろいろ協力してまいりたいというふうに思います。

あと最後に、観光協会の方の支援体制ですが、23年度で県の支援は終わりますので、24年度以降どうするかということでございますが、農林サイドの方から県の単独事業などでいい事業がございますので、そういったものを利用してぜひ引き続き栽培等していただきたいと思いますが、やはり事業主体は市ではなかなか難しいと。市としても農家の方に取り組んでいただくよう呼びかけるのはなかなか難しいかと思えます。やはりやりたい農家あるいは有志の皆さん、グループがあって、それに対して市としていろいろ国とか県の制度を紹介したり、あるいは場合によっては市単独で支援するというようなことが大切なのではないかなと思っております、ぜひそういった栽培を希望する有志の方の広がりを持ちたいと思いますが、市としてはPRなどもこれらについてはしなければならぬと、

そのように思っております。以上でございます。

○町田義昭議長 松木幸嗣健康課長。

○松木幸嗣健康課長 谷口栄子議員のご質問にお答え申し上げたいと思います。

ご質問の無料クーポン券の活用の取り組みということでございます。

ご案内のように、このクーポン券については、昨年度より実施させていただきまして、長井市におきましては子宮頸がんの検診は123名ということで17%、乳がんの検診については311名ということで受診率31%ほどになっております。この中で2名ほどの乳がんの発見に及んだということをお聞きしまして、今年度さらに活用を高めるという取り組みでございますが、一つには、40歳、45歳の方の乳がんの検診の発見を高めるためにマンモグラフィーを上下、左右の2方向から撮影するというので検査精度を高めております。

また、利用者の方の費用負担の方法を利便性を高めるということで、昨年度は受診の際に費用を一たん払って、その後その部分を市からいただくという償還払い方式をとっておりましたが、ことしは無料で受診して負担部分を市の方からお支払いすると、いわゆる現物給付に変えております。受診者の手間を省くということを進めてきたつもりであります。

しかしながら、11月段階の現在は子宮頸がんの検診については83名、該当者に対してですが、11%ほど、あと乳がんにつきましては197名ということで20%程度ということで、ご質問にありました4倍というような高い数値までにはなかなかいかないなというふうに思っているところでございます。

つきましては今後、レディース検診というのが12月で終了するというのでございますが、クーポンの有効期間が1月まであります。ということでこの後の12月15日の市報や、ホームページはきょうアップさせていただいたところな

+

んですが、未受診者へのPRを心がけて実施させていただきました。

また、12月から1月にかけて新たにクーポン券利用者のみの受診日を検診センターで設定させていただくと。予約をしていただいてなんですが、そういうことでぜひ多くの方が受診できるように配慮していきたいというふうに思っております。

ご質問にありました若い人の意見という部分であります。こちらについては非常に20歳の方はここ10年で4倍とか、30歳の方は2倍に罹患者がふえてるということでございまして、非常に大事な部分だなというふうに思っています。現在検診センターの方にも、働いてる方が多いと思いますので、土曜日の検診を何とかお願いできないかという要請をさせていただいておりますし、ご案内ありました他市町村のいろいろの状況を見させていただきますと市外の開業医さんの方で受託できる医療機関を今数をふやすようにさせていただいて、ぜひ広域的な観点から数をふやして受ける機会をふやすというふうな取り組みをやっていきたいというふうなところでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 谷口栄子議員のご質問にお答え申し上げます。

フラワー長井線の駅舎の関係ですが、フラワー長井線を利用される観光のお客様あるいは市民の皆様にご丁寧な案内を表示、またきれいな駅でお迎えせよというのはおもてなしの一つというふうなことで、各駅施設の傷んでる部分についての修理、修繕はしていかなきゃならないというふうに考えてます。

おっしゃられた長井駅の屋根のさびについては、市長が申し上げましたとおりに外観非常に悪いですので、これも検討していく必要があるというふうに考えてます。

ただ、長井駅については、管理してるのが山

形鉄道になっております。山形鉄道は、年間の予算の中では駅の修理費については大体30万円程度を見込んでいますが、その前にいろんな安全運行の施設等の修理が入りますとそちらの方に向けざるを得ないというような状況で、なかなか現在まで駅舎の施設の修繕については計画的に取り組むというような検討まではなされていない状況になっております。

ほかの駅舎、市や町の駅舎ですが、ご案内のように山形鉄道、昭和63年に国鉄から資産を引き継いだわけですが、そのとき相当老朽化していた施設、駅舎についてはそれぞれの市町で改築したものがあります。これについては建築後はそれぞれの市町で維持、補修をしてるというふうな状況になっております。それで長井駅については、まだ山形鉄道のものになっております。

駅の施設の修繕ですが、今後とも継続的に発生するものというふうに思っております。維持管理のご協力をお願いしてきております駅協力会の皆さん、あるいは関係する団体の方、山形鉄道、市の方と一緒に検討しながら今後取り組んでいきたいというふうに考えております。以上でございます。

○町田義昭議長 浅野敏明建設課長。

○浅野敏明建設課長 谷口議員のご質問にお答え申し上げます。

長井駅周辺整備事業につきましては、ご質問のとおりまちづくり交付金事業で平成21年度から平成22年度の2カ年事業として計画しております。今年度からは社会資本整備総合交付金、市街地整備事業となっております。

事業の概要でございますが、長井駅西側の環境整備と洪水対策を主目的にしております。あわせて駅西にお住まいの方の利便性の向上、それから憩いの場となる親水空間の整備を行う計画となっております。

昨年度は杉木の伐採、せせらぎ水路の整備、

給水設備工などが完成しております。

今年度の事業としましては、園路遊歩道整備工、電気設備工、あずまや設置工などにつきましては既に着手しております。残る防護さく設置工、植栽工、張り芝工などにつきましては、3月完成の工期で間もなく発注の予定でございます。

また、山形鉄道株式会社に工事を委託しております榎木川横断暗渠工事及び先ほどご質問にありました駅構内踏切新設工事につきましても既に発注しておりますので、3月までは両工事とも完成する予定となっております。

それから榎木川の水路改修につきましては、現在の線路の軌道敷における横断暗渠の断面が小さいことによりまして集中豪雨などにより上流の中道地区で溢水する被害が頻繁に発生していたことからこのたび断面を大きくする工事として山形鉄道株式会社の発注分と市の発注分あわせまして整備する予定となっております。

また、高野町地区の水害につきましてもでございますが、榎木川の本流が旧ハイマン工場の建物の床下を流れていることから土砂が非常にたまりまして、しゅんせつができないということで流れを阻害していたため上流側で溢水被害が頻繁に発生したことによりまして、平成21年度にバイパス的に市道栄町砂押線沿いに整備したものでございます。

しかし、先ほどお話ありましたように、9月12日の集中豪雨時に高野町地区で溢水被害が発生したことによりまして水防団が出動しまして、土のう積みを行い、被害を最小限にとめたところでございます。

原因でございますが、上下流の断面と比較しまして市道西裏線の横断暗渠部分の断面が小さいことによりまして上流側で溢水被害が発生したものでございます。

今後の対策でございますが、軌道敷前後の整備は今年度に完成することになります。下流側

の断面不足を解消する必要があると思っておりますので、水害防止対策として榎木川の改修整備を優先しなければならないと思っております。予算確保に向けて早急に努力したいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

○町田義昭議長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 谷口議員のご質問にお答えを申し上げます。

ベニバナについてでございますが、ベニバナを食用として栽培されておられるということで、蒲生さんにつきましては菜なポートの方にも出荷されてるというようなことでお聞きしているところでございます。

ベニバナにつきまして、従来は染料の原料として栽培されてきておるわけですが、食用としての栽培の可能性について私どもとして十分な資料は持っておりませんので、今後の研究課題とさせていただきたいと思っております。

ベニバナにつきましては、市の推進作物というふうな位置づけでは現時点ではございませんので、具体的な取り組みは行ってきておらなかったわけでございますが、市長からもありましたとおり今後は例えば県の補助金、補助事業、農林水産業創意工夫プロジェクト、これは事業費200万円以上で3分の1の補助ですが、この事業とか活力ある園芸産地創出支援事業、これも3分の1なんです、これには市のかさ上げ分もございまして、もう少し補助率はよくなるわけですが、そういった事業に取り組んでいただくような形で推進していくことが一番いいのではないかなというふうに考えております。もしこういった事業に取り組まれるということであれば農林課といたしましてもいろんな面で協力申し上げてまいりたいというふうに思っているところでございます。以上です。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。

ベニバナ、それから最上川というのは、山形

+



県の観光に係る全国的なイメージというふうなものであろうというふうに考えます。当長井市の観光戦略としても長井市の優位性をアピールできるものでないかというふうな考えであります。

観光協会の方で取り組んでいただいておりますタスの裏側の事業につきましては、平成20年度です、長井まちづくり基金を活用して事業を開始された。21年度からは県の公募型緊急雇用創出事業に耕作放棄地を活用した交流促進事業というふうな事業の内容で3年間事業に取り組むというふうなものでございます。

内容といたしましては、景観作物を植栽する、それから農業体験等の旅行商品を開発する、それからベニバナ等を活用した具体的な商品開発を行うというふうな考え方でございます。これが23年度まで実施をしたいというふうなことでございます。

とりあえず私の方の期待といたしましては、23年度、特に来年までかけて栽培管理あるいは育成管理に関する技術的な確立を行っていただきたいというふうなことで、紅もちあるいはベニバナを活用した商品、具体的な利用の仕方についての可能性を追求していただきたいというふうなことでございます。ある意味では大きく化ける可能性もあるというふうなことでありますが、とりあえず誘客に耐え得るような環境管理の体制をつくっていかねばならないだろうというふうに思っております。

また、24年度以降につきましては、市長、農林課長の方から答弁があったとおりでございますが、私どもの方としてはその状況を見ながら外に対するアピールを行っていくというふうな体制をとっていきたいというふうに考えてございます。以上です。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 詳しい答弁大変にありがとうございました。

健康課長に伺いますけれども、大変昨年と比べてましてまた丁寧な努力をされているということをお話しいただきました。ぜひ市報などにも掲載したり、せめてこの無料クーポン券をいただいている方は土曜日検診できますよ、また12月から1月までこのような日がありますということですのでぜひ丁寧に皆さんに教えていただきたいと思っております。

また、本市で該当する年齢……。これも健康課長の方をお願いします。どれくらいの人数になるのか、ちょっと教えていただきます。

○町田義昭議長 松木幸嗣健康課長。

○松木幸嗣健康課長 ご質問にお答え申し上げます。

現在先ほど市長の方からありました大型補正なり県の進め方の段階で、まだまだ不明確な部分があります。今のところお伝えいただいている中身といたしましては、子宮頸がんにつきましては中学校1年生から高校1年生というような幅を持つてようございます。年齢にいたしまして13歳相当から16歳相当の女子ということになります。現在当方で押さえさせていただいています人数ですが、補正予算と、また来年度予算とまたがる格好で行いますんですが、今のところつかんでおるのは中学1年生から高校1年生まで合わせまして556名ほどの人数になるのかなというふうに見てるところであります。以上です。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

12歳で例えば全国一斉に接種した場合、全国では210億円の予算を見ております。罹患者を減らすことで節約できる医療費というものは400億円に上がる計算だということに試算されておりますので、ただいま健康課長から長井市においての取り組み、この13歳から16歳556名に対しての該当、いろいろと事前の、このような子宮頸がん予防の子供に対してということ

のお知らせなども早目にお願いしたいと思います。

市長にお伺いいたしますけれども、先ほど駅のさびの修繕は山鉄の方の管轄だということではなかなか進まないということですが、ぜひ話し合いを持っていただいて長井市で応援していただく。また、今回12月1日号市報で紹介されております長井まちづくり基金、このような事業では対応できないのかどうかお聞きしたいんですけども。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

まずは屋根が大分さびついておりますので、それらについてはできるだけ早急に対応しなければいけないというふうに思っておりますが、実はこのたびのまちづくり交付金事業で駅舎の方も2,000万円ぐらいで最初予算を見ておったんですが、だんだん予算が足りなくなって、結局断念したと。

あともう一つは、やはり山形鉄道の方からの要請がないと、要請がないものを勝手に市でやっていいかというような迷いが実はあったようですが、やっぱりその辺はむしろ市の方から声をかけていかなきゃいけないというふうに思ってます。

あとご質問あったまちづくり基金を活用した事業ということでございますが、これは基本的には100%基金から支援するというんじゃなくて、半額は負担しなきゃいけないんですね。ですから今の山鉄に、先ほど企画調整課長から30万円の予算という話あったんで、多分300万円、400万円は屋根だけ直すだけでもかかると思いますので、そうしますと半分は山鉄が負担しなきゃいけないということもあります。ただ、なおどのような形ですれば一番いい形で直すことができるか、これは検討しなきゃいけないというふうに思っております。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

誘客、本当に県外のお客さんを山形県に、長井市にお招きするというのであれば、やっぱり山形県の花ベニバナというものはすごい魅力になります。「長井市はどこに植えてんなだ」とか「どのような取り扱いをしてんなだ」ということでもし聞かれた場合、やはり今パンフレットなどがたくさん出ておりますので、このパンフレットなどにもどこに植えてるよとか、そういうフットパスのガイドマップなどにもこの場所にベニバナがあるよということでぜひこれからはリーフレットなどにも書き上げられるような対応、取り組みをお願いしたいと思います。市長、いかがですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

谷口議員おっしゃるのはごもっともなんですが、やはり観光協会では例えば観光客のためにだけそこに植栽するというのもなかなか難しいと思うんですね。というのは先ほどから話がありましたように、栽培が非常に技術的に難しいところがあると。それから今実際食用とかいろいろな形で販売まで努力している平山の皆さんにはやっぱり相談しないと、勝手にここに植えてくださいなんてお願いできないわけですね。向こうは向こうで都合があると思いますんで。ですから、じゃあベニバナをどういうふうに生かすかというところを例えば観光協会なり、あるいは市の商工観光課なり、またそういった栽培をされているグループと協議しながら、やっぱりある程度きちんとした計画を持って栽培し、観光用にも活用していくということで考えていくべきだと思っております。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 先ほど農林課長の方からもし栽培する意欲のある人にはというので県の補助事業などお聞きいたしました。やはりこういうものも市報とか何かの機会にぜひ紹介し

て皆さんに知らせていただける方法をとっていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。以上で質問終わります。

○町田義昭議長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時51分 休憩

午後1時00分 再開

○町田義昭議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 竹田博一議員の質問

+ ○町田義昭議長 順位8番、議席番号1番、竹田博一議員。

(1番竹田博一議員登壇)

○1番 竹田博一議員 私は、本定例会に当たり、通告している3点について質問させていただきます。

環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）について市長、農林課長にお伺いします。

概要につきましては、2015年までに協定国間の貿易において工業品、農産品、金融サービスなどを始めとした全品目の関税を原則として完全撤廃することにより貿易自由化の実現を目指すFTA（自由貿易協定）を包括するEPA（経済連携協定）であります。

参加国は、関税撤廃によって自国の製品をより安価に輸出することができ、さらなる貿易拡大が期待できる。その反面、輸入品に対する関税をゼロにしなければならぬため保護されてきた国内産業がダメージを受ける可能性がある

ほか、これまでのような外国企業の進出投資規制や労働者の受け入れ制限が難しくなるといった問題があります。

本市においては農業が基幹産業であるではありませんが、工業分野においても大変重要な産業であります。稲作農家については、ことしから戸別所得補償制度で10アールあたり1万5,000円が支給されますが、残念なことにとし米価は大幅な下落となりました。高いときと比べますと約半値であります。

また、就農者の平均年齢が65歳を超えており、一段と高齢化が進んでおります。今の農政に対する不信のため若者の後継者が育たない原因と思われる。

TPPは、まだ流動的ではありますが、菅直人首相は農業への新規勧誘を促すための農地法見直しに取り組む考えを表明し、「若い人で農業をやりたいと思っている人はたくさんいる。自由に障壁なく農業に参加できるように農地法など法体系も見直す必要がある」と指摘し、前向きにとらえているようではありますが、果たして計算どおりにいくか甚だ疑問であります。仮にもしTPPに加盟した場合、自給率は40%から大幅に下がることは必至であります。

企業と農家の両方の面から本市への影響を伺います。

また、中山間地などの耕作放棄地が増加することが予想されますが、その対応についても伺います。

次に、クマ対策について市長、農林課長、総務課長にお伺いします。

新聞を読むと毎日のようにクマの記事が載っています。近年ナラ枯れ被害が拡大していますが、ことしの夏は異常な猛暑が続きました。そのためにか枯れが拡大してしまいました。

特に長井市が大きな被害を受けたことは、ご存じのとおりであります。その結果、ドングリなどの実が激減してしまいました。そしてクマ